

令和元年度第 1 回安城市市民協働推進会議 質問事項等

資料 3

no.	資料番号／ 該当ページ	質問事項	回 答
1	資料 1－1 各事業	資料1の冒頭、調査概要に進捗度「A」とは期待する効果があったもの。とありますが、この期待するものとは、資料1-1という施策の目的の事でしょうか？何処に期待するものが定量的に記載されていますか？頂いた資料だけでは、本当にAに値する、期待する効果があったのかどうか全く判断できません。 期待する効果があったことを、客観的判断ができるエビデンスを追加資料としてご提出ください。	今回は初年度ということで、過去の実績と比較して事業内容の効果を判断することができないため、実施できた、実施できなかったに主眼を置いて評価し、実施できたもののうち、単なる情報収集や情報発信であるもの以外は、実施内容や実施回数、参加者数などから判断し、事業内容について効果があったという評価をしました。しかしながら、ご指摘のとおり、調査シートには期待するものの具体的な記載がないため、期待する効果の判断が難しく、そのためのエビデンス資料の提出も困難です。今後は各年度ごとに事業内容に対する目標事項を設けるなど、進捗度の評価、判断がしやすい調査シートに改善していきたいと考えております。
2	資料 1－1 2 ページ 市民協働課 「被災地ボランティア活動に対する支援」	支援件数、人数、支給額が記載されていますが、目標に対して、どれだけ達成されたのでしょうか？ また、特定化されつつあり、施策の目的が果たしているか疑問があるとありますが、「市民活動に関心はあっても、活動するまでに至ってない市民の顕在化」という趣旨が理解されて実施されていたのか、確認していないということなののでしょうか？ そうであればPR方法云々と言うより、そもそもやり方自体がシステムとして機能していないということでは	人数は50人の目標値に対して、69人となりました。支援件数と支給額については、自然災害に左右されるため、目標値はありません。 また、施策の目的については確認し、理解したうえで実施しましたが、結果として本給付金を受ける者が特定化されつつあるという課題が出てきました。このため、やり方自体は機能していると考えていますが、施策の目的を一層果たしていくために、PR方法等の見直しを図る必要があるという結論に至りました。
3	資料 1－1 4 ページ 市民協働課 「市民活動入門講座の開催」	わくわくサロンが市民活動入門講座ということを知って、参加した市民がいたのでしょうか？ また、施策の目的である行動できる人材を育てるという趣旨が市民活動センターに正しく伝わっていたのでしょうか？ 関係者の間でターゲットとすべきステークホルダーを共有して企画しなければ新規受講者は来ないと思います。	わくわくサロンについては、入門講座であることをうたっておりませんので、その旨が参加者に十分伝わっていなかったことは否めません。また、参加者が自分事として、社会課題について考え、市民活動の受け手や担い手となるための機会、活動への参加のきっかけづくりの機会となるような企画運営を指定管理者に依頼しておりますが、昨年度の講座内容からは、それらの趣旨が指定管理者に正しく伝わっているとは必ずしも言えません。 今後は、行動できる人材を育てるという趣旨を指定管理者と共有し、入門講座の企画運営を行っていきたいと考えています。

4	資料 1－1 5 ページ 生涯学習課 「シルバーカレッジの開催」	4ページのわくわくサロン同様。 生きがいに満ちた活力ある「自分」創造。というシルバーカレッジの募集要項と施策の目的が乖離していると思います。 まちづくりに参加することを目的に入れずに募集しておいて、まちづくりに参加する事に結びつかないのは当然で、分かりきっていると思います。 小手先でなく根本的に考え直す必要があるのではないのでしょうか。	シルバーカレッジではカリキュラムの一部と補講としてのレベルアップ講座でボランティアやまちづくり参加を取り上げ、活動参加への「気づき」や「きっかけ」を提供することに重点をおいています。
5	資料 1－1 7 ページ 市民協働課 「市民協働サポーター養成講座」 資料 1－1 20 ページ 市民協働課 「円卓会議の開催」	パブコメリーディング会が市民協働にどう結びつくのか？ (市民参加ならまだ理解できるが…)ましてやサポーター養成にどう結びつくのか、分かりません。 また、円卓会議「形式」で行っても、パブコメリーディング会は何処まで行ってもパブコメリーディング会でしかなく、円卓会議の趣旨と違うと思います。これで「A」とは理解できない。分かりやすく説明をして下さい。	パブコメリーディング会は、市政のあり方やまちづくりを具体的に考える場に参加する機会を提供し、市民参加・市民活動への参加のきっかけづくり、入口の場として開催しました。 市の抱える問題とその解決のための計画や行政施策をパブリックコメントから学び、参加者がテーマに基づいた話し合いやワークを通じて市民としてできることを考え、市政や市民活動への関心を高める機会となることをねらいとしております。 将来的にはこの講座をレベルアップしていき、市民活動に参加し、行動できる人材、市民協働サポーターを育成していければと考えております。 円卓会議につきましては、会のあり方を形式ばらず、参加者が懇談的にお互いの意見を言い合える場と考えております。当日は実際に市民活動をしている方、されていない方に参加いただきました。参加者の声として「いろいろな考え方や意見の違いが聞けて良かった。違いが多様であり、異文化があり非常に面白い。」「市民活動してみえる方々の声が聞けて、刺激になり充実した時間を過ごすことができた。」また、「意見を言いつばなしでよいのも、気楽に発言できて良いと感じた。誰かの意見からふっと思いついた事例を話すに関連する話なので、最後にはテーマに戻ってきている。活動の新しい視点をもらえたように思う。」など、実際に参加された方から前向きな評価をいただいておりますので、評価「A」としております。

6	資料 1－1 1 3 ページ 市民協働課 「支援拠点同士の連携強化」 1 5 ページ 生涯学習課 「市民活動センター・生涯学習ボランティアセンターにおける相談・コーディネート機能の充実」	青少年の家はまだわかるが、生涯学習ボランティアセンターの存在意義が分かりません。特定の市民が利用できない、または利用していないような施設は、利用しやすい施設の管理運営という目的に反するのでは無いでしょうか。利用実態が分かる資料を提出ください。	生涯学習ボランティアセンターについては、現在は文化センター改修前の運営方法を継続し、自主的かつ非営利的な社会貢献活動を行い、行政との協働講座を実施し、ボランティアセンターの利用に積極的かつ責任をもって関われる団体に利用をしていただいています。今後はどのような管理・運営を行えば利用がしやすいのかを市民とともに検討し、多くの方に利用していただくための施設の運営を実施します。利用実態といたしましては、文化センターリニューアル後の 1 1 月～3 月の開館日のうち利用日数 4 3 日、延べ 6 1 回、4 2 6 人の方にご利用いただきました。
7	資料 1－1 3 9 ページ 市民協働課 「町内会への加入促進に関する啓発」	町内会への加入促進に関する啓発・異動届出書の取り扱い：平成 2 6 年 1 1 月町内会長連協理事会での議論を踏まえて、市民課窓口で「安城市の町内会からのお願い及び会員異動届出書」を配布していただいておりますが、ポストでの回収・町内会への還元が今一つのレベルに止まっています。評価結果「A」は実態に即していないのではないのでしょうか？ 市外からの転入・結婚・出生・死亡等の届け出に際しては、必ず関係者が市民課窓口を訪れます。窓口が多忙であることは理解できますが、町内会加入促進・住民台帳整備の観点からは、「窓口人員を増やしてでも『町内会への加入・家族状況異動の届け出』の重要性を、丁寧に説明できる体制整備」が必要なのではないのでしょうか？	町内会への加入を促進する啓発を行ったことに対して、町内会会員異動届の提出や加入の問い合わせ等があったこと自体は一定の効果があったものと考えています。一方で実績から見えてきた課題としても挙げましたが、はっきりと事業実施による効果が見えにくいため、引き続き広報あんじょうへの特集記事の掲載や宅建協会等の連携を図るなどの必要があると思われます。 また、市民課においては限られた人員でより短い時間で多くの方を対応しなければならないという課題もありますので、これらを踏まえながら効果的な町内会への加入を促進するため、職員に丁寧に説明するよう働きかけていきます。